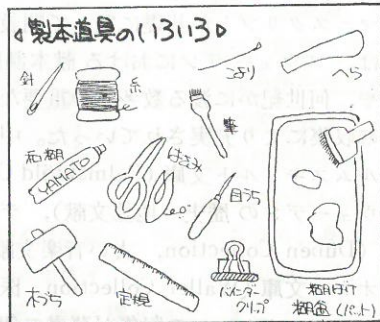
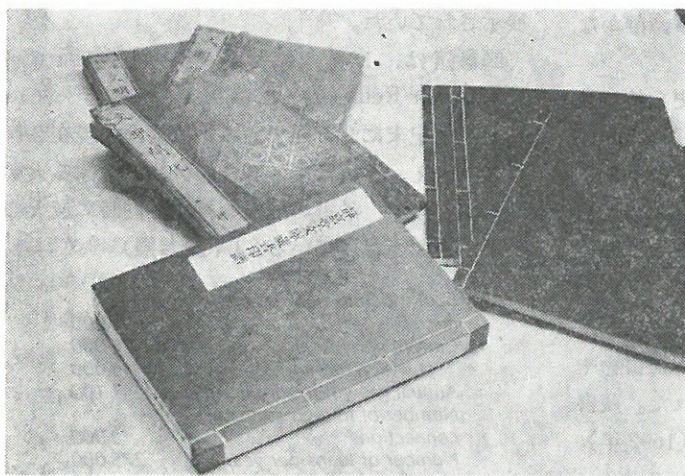


# KOZMOS

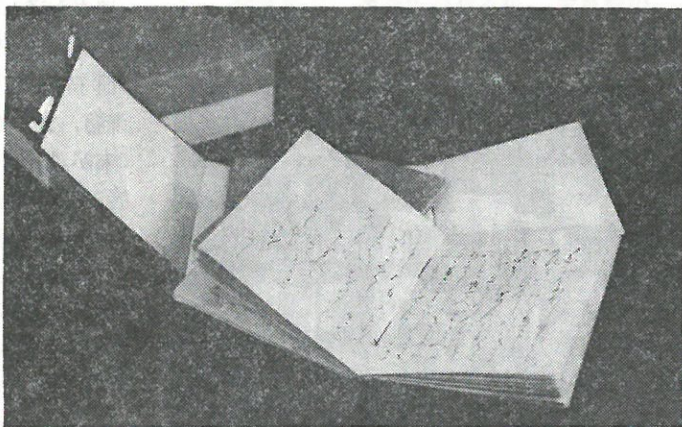
Carolina Rediviva  
 ウブサラ大学図書館… 2  
 貴重書『天稚彦』解説… 3  
 本を作ってみませんか  
 …… 4～5  
 私のすすめる一冊の本… 6  
 研究余話  
 ハンス・ケルゼンとの  
 出会い… 7  
 館内だより、お知らせ… 8

コスモス 1984 冬 (No.64)



上 和装本「四つ目とじ」のいろいろ。  
 (本文 P. 4～5)

右 貴重書「天稚彦」白山所蔵、1981年  
 度、帙・桐箱作成。江戸時代後期の  
 国学者山崎美成の「好問堂」の蔵書  
 印がある。(解説 P. 3)



<海外研修報告>

**Carolina Rediviva**

—ウプサラ大学図書館—

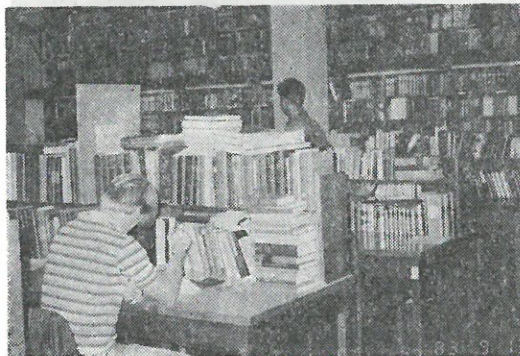
小 島 浩

昨年、9月11日から13日の3日間、海外研修でウプサラ大学を訪問する機会があった。ウプサラは、スウェーデンの主都ストックホルムの北西74キロ、人口14万ほどの宗教と大学を中心に発達した古い町である。町の中をフィリス河が流れ、古い教会の尖塔が町のどこからも見える、静かな美しい町である。

ウプサラ大学は、今年で507年の歴史を持つ大学である。大学は植物分類学のリンネ (Linne, Carl, von 1707—1778)、摂氏の発見者セルシウス (Celsius, Anders, 1701—1744) など世界的な学者を輩出し、現在も医学や地震学の分野で世界的に高い水準を保持している。

図書館は、1620年、グスタフ・アドルフ王 (Gustav, Adolf, 1594—1632) の寄贈した書物やマニスクリプトが基礎になって開設された。蔵書は、スウェーデンにおける献本制度 (1692年) や、何世紀かに渡る数多くの重要なコレクションの収集により充実されていった。中でも18世紀パルムスキルト文庫 (Palmskiöld Collection, スウェーデンの歴史・地誌文献)、デューベン文庫 (Düben Collection, 古い音楽文献)、その他ウォレル文庫 (Waller Collection, 医学史文献) など、コレクションの収集が蔵書の個性を形成している。

また、図書館は約2,500点にのぼるインキュナ



ビラーを始め、貴重書の宝庫でもある。特に6世紀ごろ羊皮紙にゴート語で書かれた「銀の聖書」 (Codex Argenteus, 一般に Silver Bible と呼ばれる) は圧巻である。訪ねた時、正面入口を入ったホールの右側の展示室に、他の貴重書と一緒に展示されていた。

図書館は、1841年にカロライナ・レディビバ (Carolina Rediviva) に移り、今日に至っている。17世紀末に3万冊であった蔵書は、現在2百万冊を越え、名実共にスウェーデンにおける大学図書館として、最古の歴史を持つと同時に最大の学術図書館となっている。(下表参照)

Book stock in number of running metres	90 000
Current periodicals	28 000
of which foreign	9 000
Annual growth in running metres	1 100
Number of foreign exchange connections	3 000
Number of loans per year	275 000
Number of employees	195
Annual budget (1982/83)	28 million SEK

(Uppsala Univ. 1983より)

スウェーデンの図書館界は最近10年、コンピュータによるネットワーク化が進められている。ウプサラ大学図書館にあって、1974年から医学、自然科学分野で目録のデータベース化が進行し、端末を通しての検索を可能にしている。レファレンス・ルームには蔵書の検索のために、各種の冊子目録 (1796年以前及び、それ以降の1962年以前)、カード目録 (1963年以降)、コンピュータ端末が設置されている。

美しい装訂の古書が注意深く保管されているかと思うと、閲覧室では新しい文献が、各人の机の上に積み上げられ利用されている。新しいものと古いものが奇妙に調和している。短かい時間をさいてのかいま見たウプサラ大学図書館、カロライナ・レディビバの印象である。

(図書館事務部整理課長 こじま ひろし)

「天稚彦」というのは、たなばたでなじみ深い牽牛星、彦星のことである。本書は、その「たなばた」のことに関する話の御伽草子といえる。

そのあら筋は次のとおりである。

昔、三人の美しい娘を持つ長者がいた。その長者の下女が川で物を洗っていると、大蛇が現れ、長者への文を頼む。その文には、三人の娘のうち一人を与えよ、そうすれば、家はめでたく富み栄えるが、もし否とあれば、七代まで家を滅ぼすであろうとある。末の娘が承知し、大蛇に会うと大蛇は頭を割ってほしいと言う。そのとおりにすると、美しい男が現れ、二人は睦まじく語らう。男は名を天稚彦といい、仮りに人界に降ったのだが、今は天上に帰らねばならない、七日したら又もどって来ると告げて、音楽を奏する天人に迎えられて、天に昇って行く。その時、美しい箱を残し、決して開けてはならない、もし開けたなら二度と帰ることが出来なくなるだろう、が、そうなった時には、天路遙かに尋ね来給えと言いつく。

その留守中に姉たちが箱を開けてしまったので、姫は七日待ったとて甲斐のないことと思ひ、教えられたように、天上へ昇り、「天稚彦の御ありかはいつこ」と、宵の明星・箒星・すばる星・暁の明星などを次つぎと尋ね行く。やっと、極楽世界のような禁中に住む天稚彦に再会でき、共に住む。しかし、この天上界にも鬼神がいて、下界の人間をここに置いてはならない、急ぎ追放せよと、怒る。

天稚彦は夜人界を照らす星なので、その留守の時に、鬼神は来て、姫を連れ出し、千匹の牛を野に連れて行き草を食べさせよとか、千石の米をあ

千萬のむかでのいる倉や、千匹の蛇のいる倉に押し籠めたり

## 貴重書から

した。それらの難題に対して、姫は天稚彦からすでに教えられていた呪文を唱えてのがれ、七日が過ぎると、鬼神も怒りをやめた。姫は清浄の身となり、今は天人となった。

天稚彦は、人界の守護となるべき身で姫と一所にいることは出来ないと言って、月に一度逢うことを約束して、西と東に別れる。姫はそれを一年に一度と聞き違えて泣いた。その涙は天の川とな

った。天稚彦は彦星となり、姫は織姫星となり、年に一度七月七日に、逢うことになった。

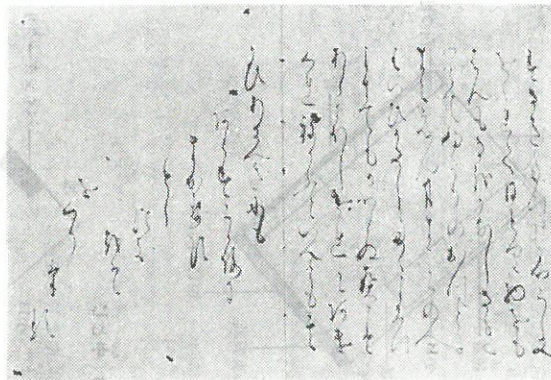
内容は以上のようであるが、素材的には、人身御供や蛇と人の怪婚譚、天界遍歴譚、難題譚、恋愛譚、本地垂迹思想、また竹取物語や浦島の話に通う要素など種々が結び付いて構成されている。

本書は本学図書館蔵で、三冊から成り、島津久基先生旧蔵の御伽草子の一つ。江戸前期の写しと思われるが、縦12cm×横9cmと、まことに小さい。綴葉装で、金茶色の布表紙。奈良絵が、上巻に七、中巻に七、下巻に六頁分、剝奪されている。

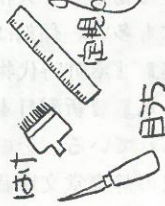
この作品には、「たなばた」「七夕もの語」「牽牛由来記」「七夕の本地」「天稚彦物語」「天稚彦草子」などの別称があり、伝本も多い。翻刻は『室町時代小説集』『神道物語集』『室町時代物語集二』『室町時代物語大成二・八』『新潮日本古典集成・御伽草子集』に収められている。その中で『室町時代物語大成八』所収の静嘉堂文庫蔵絵入写本「七夕もの語」の本文が、本書とほとんど同じであると指摘できる。(たちばな りつ)

## 『天稚彦』解説

文学部国文学科 教授 橋 り つ



# 本を作ってみませんか!



新聞や雑誌の切り抜きをまとめて、一冊の本にしてみたい、論文やレポートをきれいにとじて製本したい、そう思ったことはありませんか。一口に本作りといっても、大別して、和装本と洋装本の二種類があり、どちらも実にさまざまな様式があります。ここでは和装本の最も一般的な仕立て方といわれる「袋とじ」を紹介します。

## 材料と用具

- 本文用紙
- 表紙用紙(布や薄い紙の場合は裏打ちして使う)
- 題簽用和紙
- こより 2本
- とじ糸(太めの絹糸、色は表紙に合わせて変化をつける)
- バインダークリップ 3個
- 定規
- へら
- 目打ち
- 目打ち印(木槌など)
- とじ針
- 大和糊(水でマヨネーズ程度の柔らかさにはばす)
- 糊刷毛

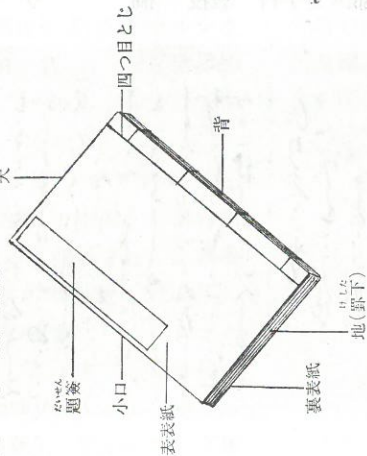
## • 糊盆

用具は身の回りにあるもので十分間に合います。

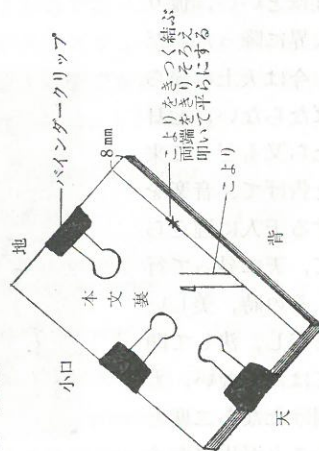
## 作り方

- ① 本文用紙は一枚ずつきちんと二つ折りにする。重ねてそろえ、重しをかけてしばらくおく。それから、バインダークリップなどで固定する。  
**袋側が小口になる。**
- ② 背から8mmくらいのところをひき、その線上に適当な間隔で二つ一組の穴を二組あける。こよりを通して仮としする。こよりの結び目は裏にくるようになり結び、叩いて平らにしておく。バインダークリップをはずして、小口がきちんとそろっているか確かめる。(図B)
- ③ 表紙の寸法は、本文の大きさに背の折り代を1cm、天地、小口の折り代を1.5cm加えて裁つ。
- ④ 裏表紙の真中に糊を少しつけ、それぞれのあきの見当をつけて本文をおく。本文の大きさにそって、へらで印をつけ、まず背の折り代を折り込み、天地、小口の順に折る。折り代の重なる四隅の部分は三角に切り落とす。(図C)
- ⑤ 裏表紙の小口側に5mm幅で糊をつけ、背側は天地の中心一ヶ所だけに糊をつけ、本文をおき

図A 本の各部の名称



図B 中とじ



軽く無でつけ乾かす。

表表紙も背側と小口側を 確認して 同様に作る。

⑥ 図Dを参考にし、穴の位置を決め、下に堅い板をあてて、目打ちで一気にかをあげる。

⑦ とじ糸は、天地の長さの三倍に対角線の長さを加えたものを用意する。

⑧ 糸の最後にこぶを作り、図E-①のように、本文を2、3枚すくうようにして針をaの穴に通す。裏表紙に通した針をさらに背をひとまわりさせて、表からaの穴に差し、あとは図E-②のように差していく。

⑨ 最後は、aの穴に戻ってくる。図E-③のように糸をすくってとめ、aの穴から表に通して穴の際で糸を切る。

⑩ とじ上ったら題簽をはる。題簽の長さは、表紙の左右の長さより3mmぐらい長くし、幅は全体のバランスを見て適当に決める。表紙の天、小口から、それぞれ4mmぐらいのところに糊をはる。(図A)

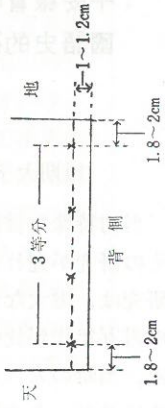
なお、糸のとじ方は、最も基本的な「四つ目とじ」です。四つ目とじとは、とじ目が四つあるところからつけられた名称です。

これだけの説明では、難しい仕事のようですが、実際に手を動かして、コツをのみこんでしまると、案外簡単にできるものです。用具、表紙の裏打ちの方法など、製本の仕方について、もっと詳しくお知りになりたい方は、右記の資料をご覧ください。

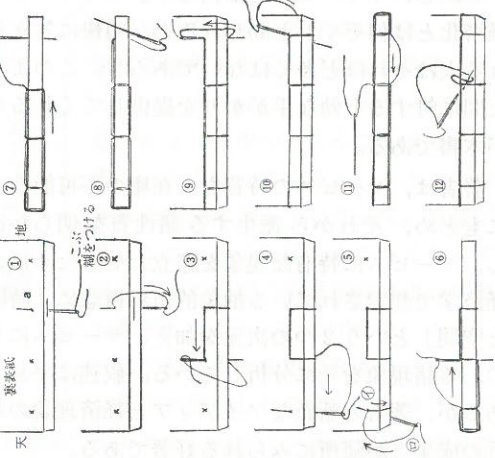
図C



図D とじ目の位置



図E 四つ目とじの手順



参考文献 (文末の記号は請求記号です。所蔵館(注記のないものは白山・朝霞とも所蔵。)

【製本全般】

L・N・フアイベル, E・W・ブラウニング共著「A・L・A.図書館製本の手引」理想社 昭和35 (白014.7:F:L)

古野健雄編「図書館の製本」日本図書館協会 昭和48 (白010.8:T-4:1-19) (朝014.7:F:T)

池上幸二郎, 倉田文夫共著「本のつくり方;和本・洋本・映・函」主婦と生活社 昭和54 (014.7:IK)

倉田文夫「趣味の本づくり;台本・改装本・革装本・特装本」主婦と生活社 昭和57 (022.6:KF)

【装訂】

K・T・ミウラ「私の製本装幀芸術の世界」求龍堂 昭和55 (白022.5:MK)

粟津 深「粟津潔のブック・デザイン」河出書房新社 昭和52 (022.5:AK)

恩地邦郎編「恩地孝四郎 装本の業」三省堂 昭和57 (白022.5:OK:2)

関川左木夫「本の美しさを求めて」昭和出版 昭和54 (022.5:SS)

【和装本の歴史と形態】

山岸徳平「書誌学序説」岩波書店 昭和53 (020.1:YT)

橋本不美夫「原典をめざして;古典文学のための書誌」笠間書院 昭和49 (020:HF)

【エッセイ】

柄折久美子「モロコ革の本」筑摩書房 昭和51 (白022.6:TK:2)

柄折久美子「製本工房から」冬樹社 昭和53 (白022.6:TK)

## 私のすすめる一冊の本

井原哲夫著

### 「サービス経済学入門」

(東洋経済新報社 1979年)

短期大学専任講師 小沢健市

最近、しばしば「サービス経済化」という言葉を耳にする。経済の発展につれて、産業構造が第1次産業から第2次、そして第3次産業へとその比重がうつっていくことは、ベティークラーク＝大川の法則としてよく知られている。

しかし、「サービスとは何ぞや」・「サービス経済化とは何ぞや」と問われると、明快に答えられる人はそれほど多くはないであろう。このような問に対する有効な手がかりを提供してくれるのが本書である。

著者は、サービスの特質を「在庫の不可能性」にもとめ、それから派生する諸性質を明らかにし、サービスに特有な現象を際立たせるために、経済学で想定されている抽象的市場概念に「時間と空間」という2つの次元を加え、サービスにまつわる諸現象を巧に分析している。叙述は平易であるが、著者の斬新なアイディアと経済理論の最近の成果とが随所にみられる好著である。

請求記号 白・朝・工673.99:IT

大杉邦三著

### 「英語の敬意表現」

(大修館 1983年)

短期大学専任講師 小西康夫

外国人が日本語を学ぶ際には敬語が難しいと叫び、我々日本人もそれに同意するけれども、我々が英語を学習する時は、英語には敬語がほとんど存在しないが如き扱いをしてきたのは不思議と言わざるをえない。敬意表現の中の敬語というのは、非常に単純な社会では発達しないし、社会がある程度都市化して、複雑な社会関係の役割の体

系が必要なところに敬語は存在するわけだから、英語にも存在するのは当然である。にもかかわらず本書のように260ページにもわたって、英語の敬意表現を集大成したのは例のないことで、まさに epoch-making な革命書である。

著者が英語教育者でなく、薬学博士で、国際的舞台で活躍された経験からこの書が生れたことは特筆に価する。この書が日本の英語教育のレベルの向上に必要不可欠であり、それにもまして、この敬意表現を知らないでは真の国際交流もありえない。まさに異文化間コミュニケーションになくしてはならぬ必読の書である。

請求記号 白836:OK:2 朝・工836:OK

小林芳規著

### 「平安鎌倉時代に於ける漢籍訓讀の國語史的研究」

(東京大学出版会 1967年)

短期大学専任講師 鈴木恵

当初特殊な言語を有するとして、和文に比してその研究が遅れがちであった訓点語・訓点資料の研究は、膨大な資料が現存することや、その資料の書写年代が比較的明らかなものが多いことと共に、当時の人々の言語生活や学的環境が理解されるに及び、今や国語学研究の一翼を担うまでに至っている。この分野に於ける大著としては、春日政治博士「西大寺本金光明最勝王経の国語学的研究」、中田祝夫博士「古点本の国語学的研究」、築島裕博士「平安時代の漢文訓読語につきての研究」などが知られるが、本書も亦、これらに続く大著であると言わねばならない。

本書の特徴は、従前の研究が主として個別的・共時的研究であり、しかも仏書を対象としていたことに対し、第一に漢籍を資料としたこと、第二に通時的研究方法を採り、漢文訓読史の全貌究明に迫らんとした点にあるものと考えられる。

紙幅の都合上、甚だ簡略な記述に終始したことをお詫び申し上げる。

請求記号 白811.6:KY

註 請求記号の白は白山、朝は朝霞、工は工学部の所蔵を示す。

私がハンス・ケルゼン (Hans Kelsen, 1881—1973) と出会ったのは、大学院に在籍していたときである。学部の学生時代に法哲学の講義で、たしかに聞いたことのある学者ではあったが、そのときは別段興味をもつほどではなかった。もっとも、その頃は、単位を修得するのに必死であったと思われる。大学院に入学し、憲法を専攻したのであったが、どうもその頃は解釈法学よりも国家学・国法学・法哲学に興味をもち、イエリネク (Georg Jellinek, 1851—1911) やラートブルフ (Gustav Radbruch, 1878—1949) などを原書で読んだものである。

ところで、なぜケルゼンに興味をもち、彼の理論に傾倒したかの直接の原因は、なんといっても私の憲法の師である法学博士清宮四郎教授 (以下、清宮教授という) との出会いである。学部の時代に憲法を教授していただいたときには、清宮教授がケルゼン研究者として学界において著名なことを知らなかったのである。大学院時代、とくに、博士課程の時期にケルゼンの虜になったのである。しかも、この時期においては、清宮教授と1対1の個人教授という極めて恵まれた環境の下に研究することができたのである。

そこで、ケルゼンの学説、すなわち、純粋法学 (Reine Rechtslehre) であるが、それは法=実定法を純粋に認識しようとする理論である。この理論は、実定法を客観的に認識しようとする法実証主義に立脚するものであり、法それ自体の根源を明らかにするために、法学方法論から非法的な一切の分子混入を排除して、法を法として把握しようとするのである。つまり、あくまでも、方法論における純粋性 (Reinheit) を確保しようとしたのである。このような方法により、法そのものを純粋に法的側面から認識しようとする理論が展開されたのである。その理論は、従来の法学が法の純粋な認識を妨げていたのは法学に異分子 (政治的・経済的・社会的・歴史的・倫理的等の諸分子) が含まれているからであるとして、それらの

徹底的排除を主張する。とくに、法規範は当為の世界に属する法則であるから、それとは論理上厳格に区別されるべき因果法則を探究する自然科学的方法を用いることは許さないとするなど、法の客観的認識を妨げる要素を一切排除したのである。こうしたケルゼンの法認識の方法論に共鳴

し、研究してみようということになったのである。ケルゼンの研究のために、まず大学の図書館に通い、彼の著書・論文を読み、図書館にないものは国会図書館に通って勉強したものである。

さて、こうしてケルゼン研究に没頭したわけであるが、研究の中で自分が一体何を研究しているのかがわからなくなってしまったことが多々あった。つまり、彼の理論をより理解するために、彼の引用する文献をも読む必要があると考え、カント、コーエン、ジンメル、フロイトなどにまで首をつっこんでしまったのである。こうなってくると、ケルゼンから離れた方向に進んでしまっ、自分が一体どこにいるのかがわからなくなってしま。その都度、清宮教授によって軌道を修正してもらったのである。こうしたことの繰り返しを重ねながらも、ケルゼン研究に専念したのである。また、ドイツ留学のおりにも、西ドイツ憲法を研究するかたわらの仕事としたのである。

このように、まず清宮教授との出会いによりケルゼンを知ることとなり、現在の私の法学方法論の基礎をなしているのは、ケルゼンであり、また清宮教授でもある。

(法学部経営法学科 助教授 なゆき けんじ)

註 『純粋法学』 請求記号 白山321.1:KH:2  
朝霞321:KH 『Reine Rechtslehre』 請求記号 白山321.1:KH

ハンス・ケルゼンとの出会いより

研究余話

名雪健二



お知らせ /

お知らせ /

お知らせ /

＜今春、卒業される方へ＞

卒業後も校友として本学図書館を利用することができます。卒業証明書（卒業証書は不可）を提出し図書館利用カード（校友）の発行を受けて下さい。館外貸出 3冊1ヶ月間、館内閲覧 5冊以上の要領で利用できますが、詳細は各カウンターでお尋ね下さい。

教職員の皆様へ

白山、朝霞分館では、1981年6月以前に使用していた「教職員館外帯出ノート」の保管分について、今年度一杯で廃棄処理をいたします。保管依頼をなさった方で、返却ご希望の方は2月末日までに各カウンターまでお申し出ください。

工学部分館利用者の皆様へ

1983年10月1日より帯出カードが変更になりました。これで、貸出方法が白山、朝霞と同じ形式に統一されたこととなります。ただし、分館では有効期限は在学期間中です。進級時には必ず確認のチェックを受けて下さい。今後は、3館共通に帯出カードが使用できるよう検討して行きたいと思っています。

朝霞分館利用者の皆様へ

このたび、多数の方に利用していただける図書館にと思い、投書箱を閲覧室に設置いたしました。ご希望、ご意見など、お寄せください。



館内だより ('83.10/5~11/28)

- 9月5日~10月5日 小島海外研修
- 10月5日 予算小委員会
- 7日 国書刊行会 割田・川村両氏 学祖の図書復刊のため来館
- 11~14日 私立大学連盟一般研修図書館関係 於愛知県三ヶ根グリーンホテル 小笠原・原口参加
- 12日 館長分館長会議、図書館運営委員会
- 14日 視聴覚室主催映写会「大理石の男」
- 15~16日 日本図書館学会 於本学(図書館側協力)
- 17日 視聴覚目録説明会 於日販 大和田参加
- 20日 図書館連絡会
- 21日 予算小委員会
- 24日 逐次刊行物小委員会
- 26~28日 全国図書館大会 於山口市市民会館 百武・村田・後藤出席
- 27日 工学部分館運営委員会
- 11月2日 国書刊行会 「新編 妖怪叢書」完成寄贈
- 9日 私大図書館協会東地区連絡懇談会 於国学院大 百武・小島参加  
私大図書館協会東地区研究部会 於明治神宮会館 市村・千葉参加
- 11日 視聴覚室主催映写会「Uポート」
- 16日 逐次刊行物小委員会
- 18日 七大学図書館長懇談会 於浦水会館(学習院)

成城・成蹊・駒沢・専修・武蔵・東洋)

- 22日 工学部分館連絡会
- 24日 工学部分館期中監査、図書館連絡会
- 28日 杖下名誉教授蔵書(寄贈)搬入

分科会関係

- 視聴覚分科会(水口) 10/11・11/8
- 理工学分科会(田辺) 10/13
- 相互協力的分科会(村田) 10/18・11/15
- 書誌学分科会(山内(四), 高橋) 10/22・11/12
- 書誌作成分科会(小笠原) 11/22

追加

前号(No. 63)の記事に次のことを追加します。  
 P.2 右下註 白山所蔵  
 P.6 右下註 竜山文庫は、白山に所蔵され  
 P.8 館内だより、6月1日 人事異動発令 朝霞分館矢野(朝霞事務総務課へ)朝霞分館千葉(工学部分館へ)工学部分館原口(朝霞分館へ)学生課道上(工学部分館へ)

一編集後記一

あけましておめでとうございます。  
 今回もまた多くの方々のご協力のもと、コスモスを送り出すことができました。ありがとうございました。本年もよろしく願っています。